

Fortec Architects (株)
代表取締役社長

大江 太人氏



Fortec Architects (株)は、設計、PM(プロジェクトマネジメント)、CM(コンストラクションマネジメント)などの業務を行う企業。しかし同社は設計会社でも、PMの

会社でもない。代表取締役社長の大江太人氏は一級建築士でありながらハーバードでMBAを取得した稀有な経歴の持ち主。この経歴を生かして「建設の視点から経営の課題の解決」を行う。目指すのは建設

業界で唯一のコンサルディング会社だという。大江氏に話を聞いた。

——貴社の

業務から。

大江 設計士としてキャリアをスタートし、その後ハーバードでMBAを取得した。様々な経営トップの方と経営課題の解決に向けてディスカッションさせていただき、建設関連のお話になった

わたる。

——あくまで経営課題の解決手段として設計などをしているのですか。
大江 顧問としてのアドバイスから、設計、PM、CMといった実務まで広範囲にわたって支援する。ただ我々は設計会

建設視点で経営課題の解決支援

建設業界で唯一のコンサル会社へ

際、ではこうしたらいかがですかと提案する。分かりやすい事例でいうと、トップが抱えている課題が効率的な営業所の運用だった際、運用の改善からオフィス移転までお手伝いをした。手がけたアセットとしてはオフィス、工場、研究所、データセンター、店舗、住宅、大学施設など多岐に

社ではなく、提供している価値は経営課題の解決。設計などはその手段だと思っている。解決の手段として自分で設計した方がいと判断すれば設計するが、自らは設計せず設計や施工の入札スキームを提案することもある。

——建設視点での経営コンサルは珍しいです。
大江 もともと東大の限研吉さんの研究室を卒業し、竹中工務店に入社した。竹中工務店ではアップパークスのマンションなどを設計させてもらい、非常に勉強になった。一方で、大学は院に進ま

計会社を継ぐ可能性があり、加えて建設は大きな投資でもあり、大きな経営判断になると実感していた。設計士で財務三表を読む人はかなり少ないし、MBAを取得することで何か新しいサービ

とビジネスについてディスカッションできたことは、今の仕事で経営トップの人とお話する際に非常に役に立っている。MBA取得後、一度父の会社に戻ったが、MBAを活かした新しいサービ

21年7月にFortec Architectsを設立した。世の中の建設業務で課題と感ずることは、大江 これまで建設関連の業務を発注する際、機能性などの品質と金額の裏付けがあまりなく、

第三者の証明・裏付けが重要となる。最近では外資系の企業が入る案件も増えているが、そうなることで適正な品質や金額であるという裏付けは、当社はその求められる。当社はその合理性を証明する第三者

今

——今の時代に求められるサービスですね。
大江 最近の流れでいうと、建設の専門家として英語でコミュニケーションを取れることも強みになると思う。外資企業が日本の事業に参画することも増えたが、日本、特に建設業界では、英語でコミュニケーションを取れる人はかなり少ない。直訳ではなく意識した上でコミュニケーションを取れる人はさらに少なくなり、気が付いたらミスコミュニケーションがあるまま話が進んでいることもある。当社が間に入ることで交渉がしやすくなるし、実際、ある外資系企業が日本のホテル施設に投資する際、間に入ってコミュニケーション

ど

——会社の方向性は。
大江 大きなことを言うとうと、建設業界で唯一のコンサルディング会社を作りたいと思っている。企業のトップに経営課題の解決としてアプローチし、建設とビジネスを結び付ける会社は存在しない。これはグローバルに見てもそう。建設は大きな投資であり、経営に大きな影響を及ぼすため、我々の仕事は意義があると思う。今メンバーはアライアンスを含めると約20人で、年内にフルタイムのメンバーが4人になる。1年目から資金調達せずに事業拡大を進められたので、この状態で業務を拡大していきたい。(聞き手・編集長 高橋直也)

